経済と生活、技術進歩と変化

令和６年１２月２８日
黒田インターナショナル　コンサルティング　LLC
黒田　毅

需要は企業へ利益を与え、それは生活における需要において存在する。それが経済と現実である。

これら経済サイクルは、消費者の嗜好とともに企業業績の形成を行うものである。企業がこれらへ迎合することにおいて自己を有することもでき、独自コンセプトを追求することにおいてもこれらを有することができる。

これらは企業製品とサービスの構築が双方の判断を有するのである。今日の変化という現実において、企業はその自己プレゼンスの形成を製品とサービスにおいて可能とできるのである。

これらが需要を形成することは、独自性における製品とサービスはそれらを開拓するものであり、固定需要への製品の提供は固定需要への製品とサービスの提供を行うものである。

これら視点は、企業が自己の挑戦において未来を構築することは今日の現実において、理解を要求するものである。

しかし経済の拡大は、今日企業へその独創性における新規市場の開拓を求めることは正しいのである。

これらは企業経営への視点の転換を提案するものである。企業が自己の哲学とビジョンを明確に有しその企業経営において自己製品とサービスの構築をすることはそれら指針における自己構築を得ることなのである。

これらは明らかに GAFAM やマグニフィセント 7 の現実なのである。

これらは理解の積み上げがこれらへの到達を得ることなのであり、それらが企業製品とサービスにおける新たな可能性の実現を与えるのである。